

21 世紀アジア学部 21 世紀アジア学科

【教員養成の目標】

21 世紀アジア学部は、日本やアジアの多様性と共通性を深く理解し、世界に視野を広げて活躍できる、国際的な人材の育成を目標としている。また、ディプロマ・ポリシーとして、「国際社会で活躍するために必要な、日本とその他のアジア地域に関する幅広い知識と教養および社会人基礎力と外国語能力を有し、それらを活用して誠実に仕事を行い、信念と責任を持ってやり通す姿勢を身に付けている」を掲げている。このような理念に基づき、本学部の教職課程では、以下の諸能力をもつ社会科教員と英語科教員の養成を目標とする。

【社会科教職課程】

1. 社会との関わりを意識して課題を追究したり解決したりする態度や資質・能力をもつ教員。
2. 社会科の知識や社会科独自の見方・考え方を基に、社会の在り方や人間の生き方について考察できる教員。
3. 自国やグローバルな動向を横断的・相互的に捉えて、現代的な諸課題を歴史的に考察できる教員。
4. 上記の資質・能力や態度を身に付けたうえで、それらを生徒に指導できる教員。

【英語科教職課程】

1. 国際的な基準である CEFR を参考に、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと [やり取り]」、「話すこと [発表]」、「書くこと」の五つの領域で授業目標を設定できる教員。
2. 語彙や文法等の知識をもつだけでなく、実際のコミュニケーションにおいて、自分の思考・判断を英語で表現することができる教員。
3. 学習者のレベルに合わせて英語で授業を展開できる教員。

【当該目標を達成するための計画】

上記の教員を養成するために、以下の教育課程を編成する。

1 年次では、総合的な知識・技能を高めるため、社会科と英語科との合同の基礎演習クラスを設ける。これを基盤として、教職課程の専門的な学修を開始する。社会科の専門教育では、日本史、世界史、政治、経済等の基本的な事項を学ぶ科目を配置する。英語科では、英語学や英米文学等をはじめとする専門科目に加え、教職課程の専門クラスで英語を学べるようカリキュラムを編成する。2 年次より、各教科の教育論や具体的な指導法に加えて、生徒指導、特別支援教育など、教育職員としての在り方を学び始める。3 年次には、教職の専門科目を深めつつ、授業を計画・実施し、それを改善するための実践的な指導力を身に付ける。4 年次には、教育実習を通じて、生徒や現場教員とのかかわりを体験し、大学で学んだ理論と現場での経験との往還による内省を行い、自己の能力の向上や教育に向かう態度を養う。

なお、本学部では教育課程外の学修にも力を入れており、4 年次進級までに、社会科では志望自治体の教員採用試験（専門科目）レベルの試験の合格及び漢字検定 2 級の合格、英語科では TOEIC700 点以上の取得が可能となるよう指導を行っている。また、教育ボランティア参加への配慮等も行い、実践的な資質・能力を育む環境作りを心がけている。